



【町家を縫う小径】

古くからの町家の美しい風景が残る津島市、本町筋。しかし、役目を失った町家は消滅しつつあり、かつて一体となって通りを盛り上げたその風景は失われつつある。今、バラバラになりつつある町家どうしを小さな径でつなぐ。小径はいろいろなものを巻き込み、様々な風景を紡ぎ出してゆく。

1. 本町筋周辺の現状

本町筋周辺には町家が多く残っており、昔からの古い街並みを持つが、現在でも有効に使われているのはわずかであり、実際には遊休不動産となっているものが大半である。住人/世帯数が減り続ける中で、個人では維持管理が出来なくなり、取り壊して駐車場にしたり、建て売りの一戸建てにしてしまうケースが増えている。



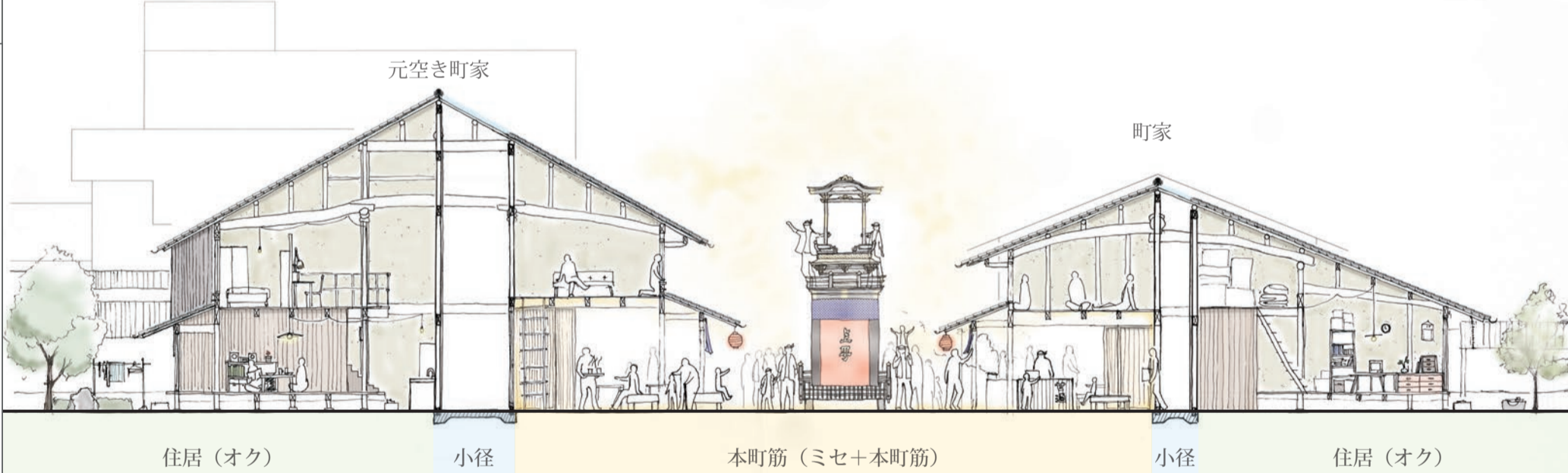
2. 設計主旨

本町筋沿いの町家に小径を挿入し、再活用をはかるとともに本町筋の活気を取り戻す。

近年、歴史ある本町筋沿いの町家は空き家になっているか、もしくは所有者がいても部材が傷んでいたり正面をシャッターで閉め切ってしまったりと、十分な管理活用がなされていないと思われるケースが増えている。また、そのことが原因の一つとなって、本町筋はかつてにぎわいを失ってしまっている。

そこで、活用されていない町家に関わらず、町家の裏面方向に、木製フレームで作られた小径を挿入し、手前(ミセ)を住民のための半公共空間として解放し、住居を奥へと再配置する。ミセが個人宅の中の公共空間から、住民全員のための空間へ生まれ変わり、空き家や有休不動産となっていた町家を再び街へ参加させる。加えて本町筋を歩行者専用空間とすることで、格子戸等の間仕切りによってミセは本町筋とゆるやかに溶け合い、大きな公共空間が形成される。

3. ダイアグラム

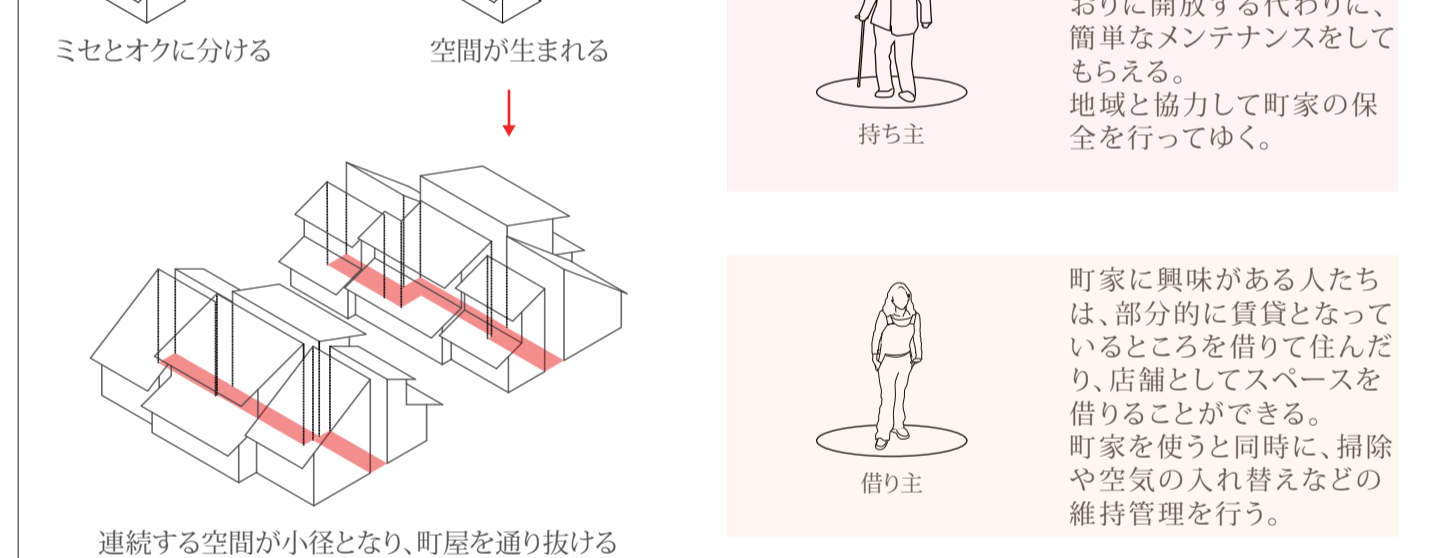


4. 設計

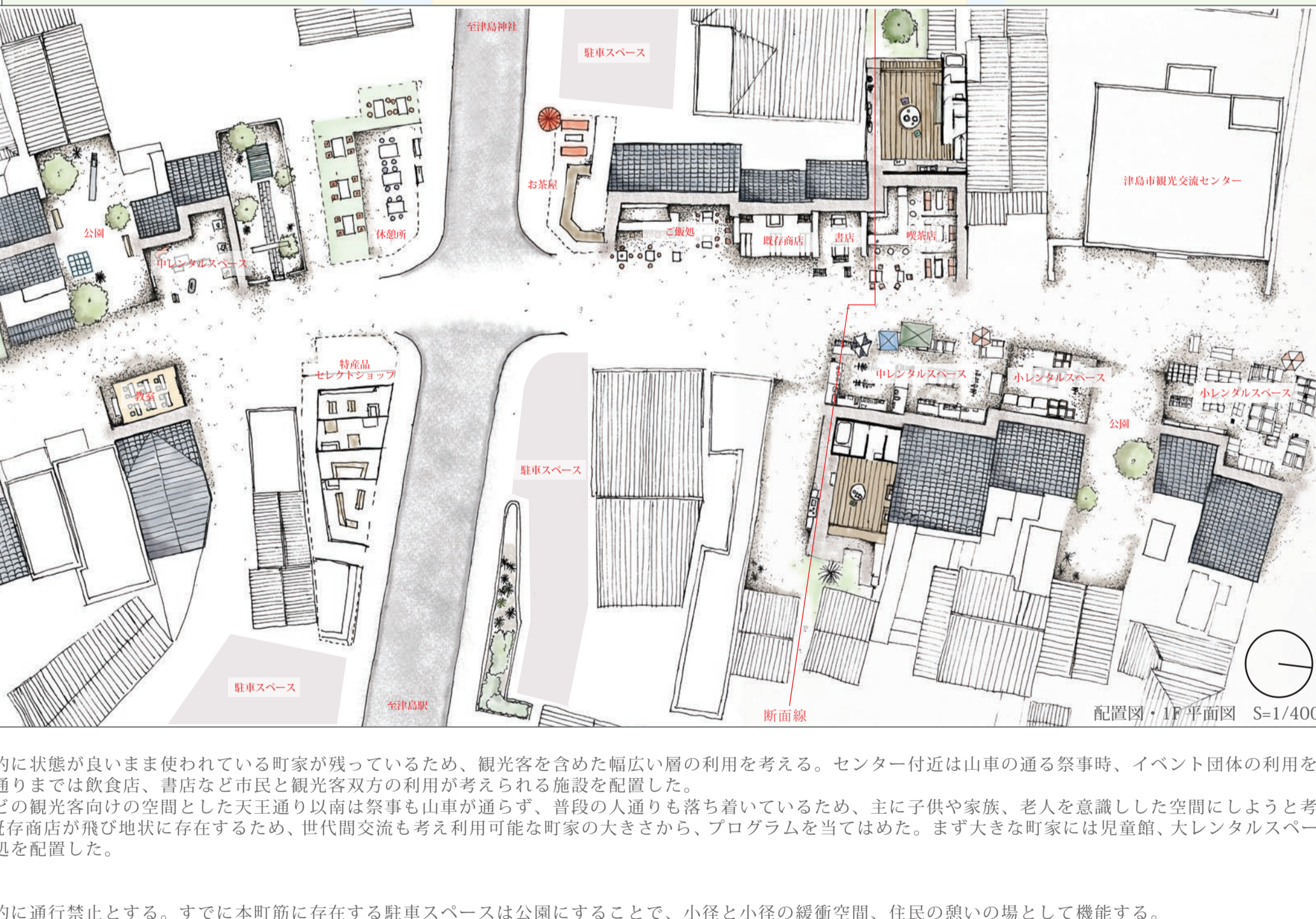
ミセ 祭事時は、ミセの一階は格子戸が開かれ、町家と本町筋が溶け合い、大きなハシの空間が形成される。通常時、二階は一階のプログラムを補完する空間であるが、この時には山車を眺める機軸となり、祭りに訪れる人々の休憩所にもなる。

小径 小径を形作る木製耐震フレームは既存構造材と緊結され、生活動線でありながら災害時の避難経路として機能する。直上の上部の瓦は撤去してトップライトとすることで、町家の本質的欠点であった採光の少なさを解決する。小径、ミセ、本町筋は、格子戸などの間仕切りによってゆるやかに分断されている。

住居(オク) 現在住み手がいる町家は、既存プランを整理しつつ、オクに住居スペースを移動する。空き家は前述のように賃貸物件とする。



5. 情景



パブリックスペースの配置 北側から説明していく。北側は観光交流センターの存在や比較的に状態が良いまま使われている町家が残っているため、観光客を含めた幅広い層の利用を考える。センター付近は山車の通る祭事時、イベント団体の利用を狙って中小レンタルスペースを連ねて配置した。そこから天王通りまでは飲食店、書店など市民と観光客双方の利用が考えられる施設を配置した。天王通りと本町筋の交わるところは、特産品ショップや茶屋などの観光客向けの空間とした天王通り以南は祭事も山車が通らず、普段の人通りも落ち着いているため、主に子供や家族、老人を意識した空間にしようと考えた。南側には大きな町家が残っていること、営業している既存商店が飛び地状に存在するため、世代間交流も考え利用可能な町家の大きさから、プログラムを当てはめた。まず大きな町家には児童館、大レンタルスペース、そして既存商店以外小さな町家には教室、文具店、休憩処を配置した。

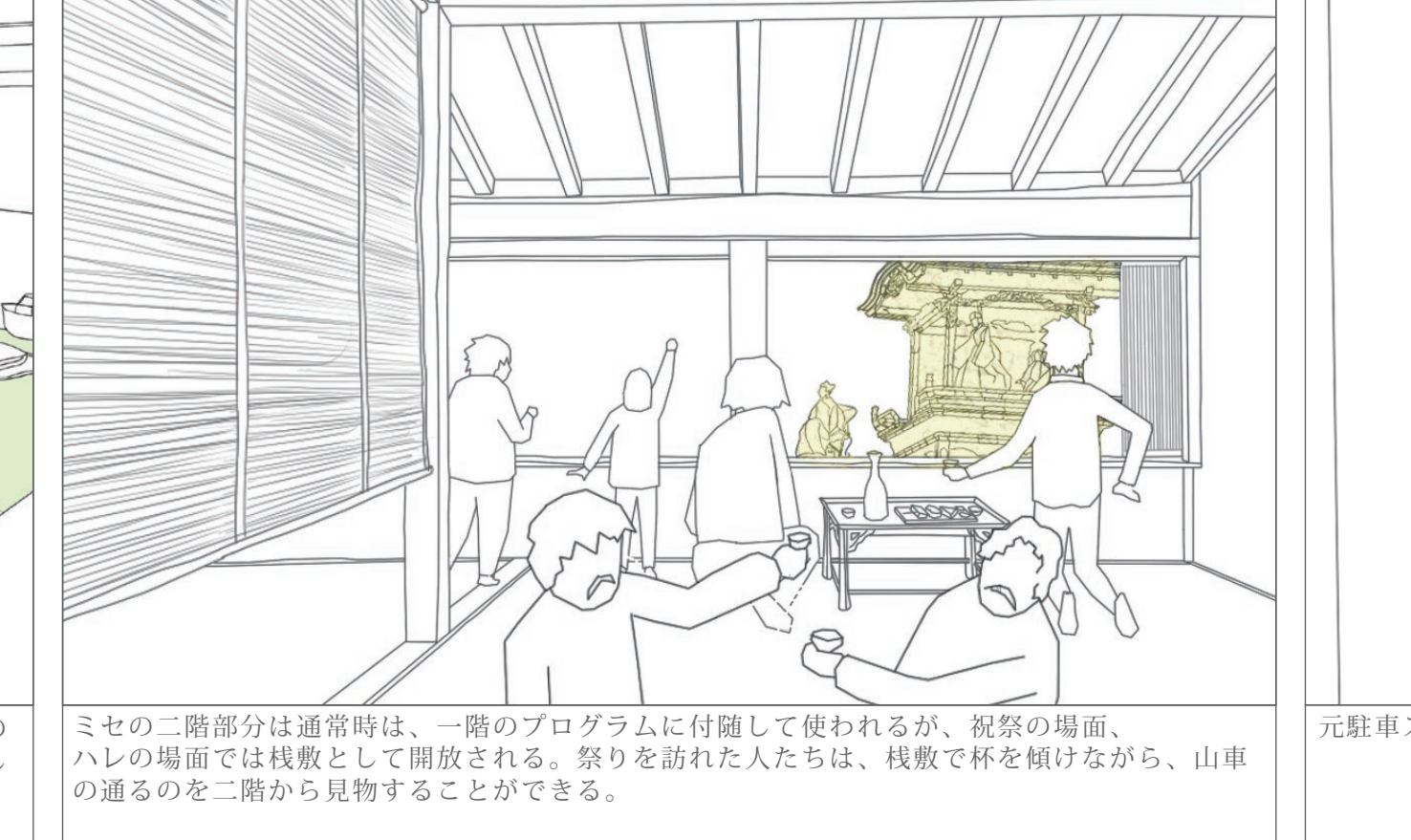
オープンスペースの配置 天王通り沿いに駐車スペースを設け、自動車は区内には全面的に通行禁止とする。すでに本町筋に存在する駐車スペースは公園にすることで、小径と小径の緩衝空間、住民の憩いの場として機能する。

6. 町家にまつわるひとたち

地域の人は、町屋の持ち主から町屋の一部を預かり、ポランディアで維持管理をする。また地域に必要な機能を、預かっているスペースに入れば活用できる。そのことによって街に賑わいを取り戻す。

町家の使っていない部分を地域に預けたり、店をとおりに開放する代わりに、簡単なメンテナンスをしてもらえる。地域と協力して町家の保全を行ってゆく。

町家に興味がある人たちは、部分的に賃貸となっているところを借りて住んだり、店舗としてスペースを借りることができる。町家を使うと同時に、掃除や空気入れ替えなどの維持管理を行う。



町家のミセを開放した児童館。時間のあるおじいちゃんおばあちゃんが子供たちの相手をする。町家の中で、いろいろな遊びや津島に伝わるお話を聞いて子供たちは成長してゆく。

ミセの二階部分は通常時は、一階のプログラムに付随して使われるが、祝祭の場面、ハレの場面では機軸として開放される。祭りに訪れた人たちは、機軸で杯を傾けながら、山車の通るのを二階から見物することができる。

元駐車スペースとともに、老朽化が進んでしまい保全が難しい町家は、取り壊して土地を公園として開放する。